

海の中のヒッチハイカー ～ミナミハンドウイルカとコバンザメ～

船上や水中でイルカを観察していると、体に何やら黒っぽい生物がくっついているのを見かけます。イルカの赤ちゃんというわけではなく、「コバンザメ」と呼ばれる生物で、イルカにとってはくすぐったいだけの存在です。その名に「サメ」という文字が入っていますが、サメの仲間ではありません。スズキ目コバンザメ科に分類される硬骨魚類です。いわゆる「サメ」の仲間は軟骨魚類に分類されます。

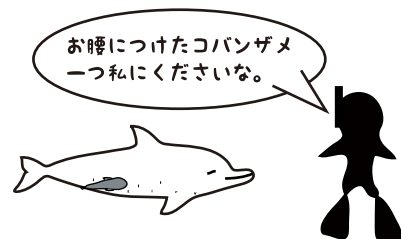


図1.
ミナミハンドウイルカに吸着するコバンザメ科魚類

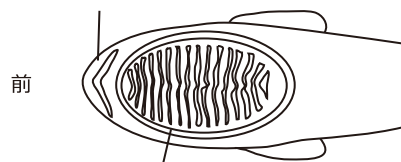
コバンザメ科魚類は、世界中に3属8種が知られます。西部大西洋にのみ生息する1種を除いて、世界中の熱帯から亜熱帯の海に生息しています。彼らは頭の上にある吸盤を使って、サメ、エイ、硬骨魚類、ウミガメ、鯨類、時には船にもくっつき、海の中を移動します。文献によると、鯨類にくっつくのは、少なくともオオコバン、コバンザメ、ホワイトフィンシャークサッカーという種類です。小笠原のミナミハンドウイルカについている

種類は「クロコバン」が多いとされますが、これは上述した3種とは異なります。地域や吸着の相手による違いでしょうが、彼らにスポットライトを当ててじっくり見てみるのも面白そうです。ただ、正確な種判別は手に取らないと難しく、研究者の悩みの種のようなのです。

ちなみに、彼らのもつ小判形の吸盤ですが、実は、背ビレが変形したものです。吸着力はとても強く、イエメンやケニアなどの地域では、なんと、ウミガメ漁にも利用されているそうです。コバンザメの尾にロープを結び、ウミガメの近くに投げ入れると、カメにくっつき、そのままたぐり寄せることができるのだとか。



受け口になっているのは
上から落ちてきた餌を食べるため

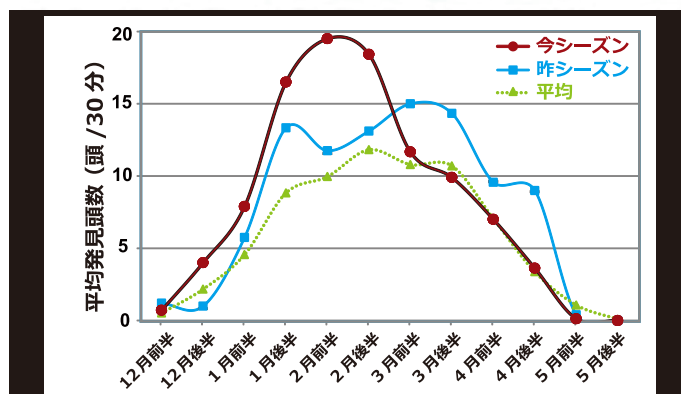


背ビレが変形してできた吸盤
ひだには細かな歯のような突起があり、摩擦を強める

図2.
上から見たコバンザメ科魚類の頭

【引用】Fertl D & Landry AM (2017) Remoras. In Encyclopedia of Marine Mammals (Third Edition), pp. 793-794.

ザトウクジラの定点観測結果～2017/18シーズン～



今シーズンのザトウクジラの発見数の推移についてのご報告です！12月前半は例年並みでしたが、12月後半には例年以上となり、そのまま順調に数を増やしていきました。2月前半にはピークを迎え、毎朝30分の間に平均で約20頭のクジラが観察されました。3月以降は発見数が減少し、例年並み、昨シーズン以下となりました。シーズン全体の1日の平均発見頭数としては、昨シーズンとほぼ変わらない結果となりました。来シーズンはどうなるか。今から楽しみです！